

『ドライバー情報提供のためのCAN情報利用方法に関する研究』について

株式会社テクトム(東京都中野区、代表取締役:富田 直樹、以下「テクトム」と)、学校法人芝浦工業大学(東京都港区、学長:村上 雅人、以下「芝浦工業大学」)は、「ドライバー情報提供のためのCAN^{※1}情報利用方法に関する研究」(以下、「本研究開発」)を共同で取り組むことになりましたので、お知らせいたします。

本件は、システム理工学部機械制御システム学科 伊東敏夫教授の研究テーマである「自動車の安全・環境・快適性能を向上させる運転支援システム(ITS^{※2}・ASV^{※3}含)の研究」の一環として共同で研究開発を実施するものです。

伊東敏夫研究室では、来る自動運転、ビッグデータ時代を前提にしたセンシング・制御技術の開発と、認知科学に基づくドライバーの運転特性を主なテーマとしています。本研究室では、周辺の交通環境に無意識に影響されるドライバー特性が運転操作情報に出現することを応用して、その操作特性から逆に交通状況を推定して情報提示することにより、安全・環境・快適向上を目指しています。

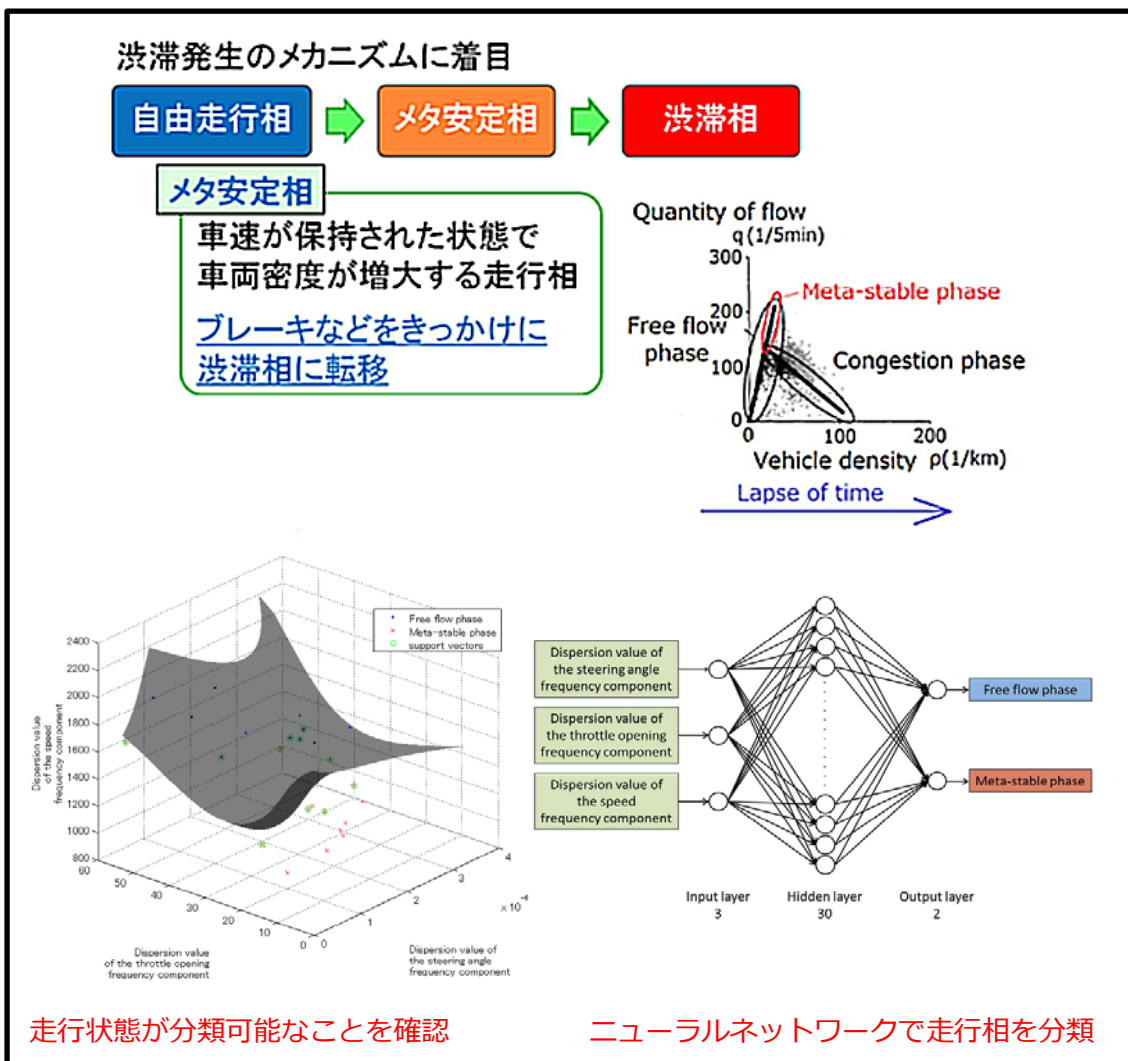
本研究開発は、車両情報の取得・解析ノウハウを持つテクトムと、運転の特徴から周辺の交通予測を研究する伊東教授の知見を融合させ、実際の交通環境での実証開発を実現したものです。今後、研究結果をもとに『安全・快適・環境にやさしいクルマ社会』を実現するための情報提供システムを検討します。

最終的な研究成果は、すでに当社製品で実現してきたドライバーに対する情報提供だけでなく、IoT^{※4}・ビッグデータ分析を通じて、あらゆる方法で道路交通全般に活用できるデータやシステムを開発していきます。

テクトムは、今後も車両解析技術を通じて、安全・安心・環境負荷低減を実現するデバイスやシステムを提供することで、自動車・交通環境の発展に貢献していきます。

以上

図 運転情報からの渋滞予測理論



- ※1 ドイツのボッシュ社が提唱し、その後、国際標準化機構 (ISO) が ISO 11898 および ISO 11519 として標準化された通信規格。機器の制御情報の転送用として普及しており、輸送用機械、工場、工作機械などのロボット分野においても利用されている。
- ※2 Intelligent Transport System の略で、情報技術を利用して交通の輸送効率や快適性の向上に寄与する一連のシステム群の総称。
- ※3 先進安全自動車 (せんしんあんぜんじどうしゃ、Advanced Safety Vehicle の略で、自動車にさまざまな先端技術を用い車両そのものが運転を支援する高度道路交通システム。
- ※4 Internet of Things の略で、様々な「モノ (物)」がインターネットに接続され、単に繋がるだけでなく、モノがインターネットのように繋がる仕組み。

(芝浦工業大学・システム理工学部について)

- ・システム理工学部はさいたま市にキャンパスを置き、5つの学科を有する。教員数70名、学生数約2,000名。
- ・機械制御システム学科は、高機能ロボット、次世代自動車、クリーンエネルギー・パワーソースなど、機械制御システムの解析、開発、設計、製作を行う基礎を、広範な視点から全体を最適化する原理や思考(システム工学)とともに学習する。

(伊東敏夫研究室について)

- ・伊東敏夫教授 博士(工学)・神戸大学。JSAE エンジニア、自動車技術会フェロー等を歴任。自動車メーカーにてカーエレクトロニクスの研究に従事後、2013年より現職。発表論文数約60件。
- ・運転時の人間の各種特性を解析して最適な支援とは何かを探求し、運転をより効率的に、より快適に、より安全に変えることを目指している。

〈本件についてのお問い合わせ〉

株式会社テクトム 事業推進グループ

〒164-0012 東京都中野区本町6-16-12 新中野FKビル6F

TEL:03-3229-1161(代表)

FAX:03-3229-1163

Mail:postmaster@techtom.co.jp